

科目名	失語症Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕							
失語症の定義、言語に関わる脳機能、失語症の症状、評価、リハビリテーションについて理解できる。 失語症の症状、評価、リハビリテーションプログラム立案について学び、家族支援についても考える。							
〔授業全体の内容の概要〕							
失語症の定義、言語に関わる脳機能、失語症の症状、評価、リハビリテーションについて理解できる内容とする。 失語症の症状、評価、リハビリテーションプログラムについての基礎知識および国家試験に則した知識を身に付ける。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
成人を中心とした失語症について学び、リハビリテーションに必要な検査方法やリハビリテーションプログラムが理解できる。							
回数	講義内容						
1	失語症の定義と失語症と区別されるコミュニケーション障害、失語症臨床における言語聴覚士の役割について理解できる。						
2	失語症に関連する脳機能を理解できる。						
3	失語症の原因疾患と病巣、機能の側性化等の理論を理解できる。						
4	失語症の言語症状：発話面の症状を理解できる。						
5	失語症の言語症状：理解面、復唱、読み、書字の症状を理解できる。						
6	古典的失語症候群：失語症のタイプ分類が理解できる。						
7	その他の失語症候群（皮質下失語、交叉性失語、原発性進行失語）について理解できる。						
8	純粋型（純粋失読、純粋失書、失読失書）について理解できる。						
9	表層失読・失書、音韻失読・失書、深層失読・失書について理解できる。						
10	失語症の評価と診断について理解できる。						
11	失語症の各種訓練理論および訓練計画が理解できる。						
12	失語症の機能回復訓練について理解できる。						
13	小児失語の定義、原因、病巣、評価、訓練について理解できる。						
14	失語症の定義、症状、タイプ分類についての総まとめ						
15	失語症の評価、訓練理論、機能訓練委についての総まとめ						

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
言語聴覚士テキスト第3版	大森孝一ほか	医歯薬出版株式会社
標準言語聴覚障害学 失語症学第3版	藤田郁代	医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。
--